

# ひがしひろしま 郷土史研究会ニュース

No.608

2025年4月

## 3月例会報告

3月例会は3月22日(土)、市役所北館市民協働センターで開催され、26人が参加した。

冒頭で赤木会長がNHK朝ドラ「あんぱん」脚本家の中園ミホさんがファミリーヒストリーに取り上げられるため、曾祖父の出身地・高屋町造賀に関する問い合わせが来たことを紹介。「蔵楽恭子さんに調べていただいている。今後取材が入り、研究会や東広島市が全国に知られるきっかけとなることを期待している」とあいさつした。

研究発表は「第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会」の開催予定地・安芸津町から、安芸津町郷土史研究会の矢原大和会長をお招きし、町内の見どころについてお話しいただいた。特に第1関所の榊山八幡神社。

発表後「第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会」の進捗状況、第2回試歩の開催予定、当日の進行などに関する報告があった。

例会のまとめとして、歩く会の実行委員長でもある福村副会長が「会員の皆さんにはぜひ参加、ご協力を頂きたい」と呼びかけた。

<例会参加者(敬称略)> 赤木達男、國松宏史、福村博士、船越雄治、池本安弘、山地悦子、堀内幸子、近藤英治、蔵楽知昭、蔵楽恭子、谷本操、天野浩一郎、光田清志、吉村鈴枝、吉田泰義、藤原美香、神本良彦、国永昭二、丸本富美子、吉井良平、中川平介、多太勉、重竹訓江、徳永京子、小西美智子、大森美寿枝(以上26名)

## 総会のご案内

日時 4月12日(土) 10:00~  
場所 市役所北館 市民協働センター  
内容 令和7年度東広島郷土史研究会総会

## 「創立50周年」を振り返って(2)

会長 赤木 達男

### 歴史的な節目の「県史協大会」

東広島市で開催された県史協大会は1985年(昭和60)8月に中央公民館などで開催された第7回大会、1994年(平成6)9月の第16回大会(広島大学)、2000年(平成12)3月の第21回大会(つるかめ総合結婚式場)、2009年(平成21)11月の第31回大会(中央公民館)、2013

年(平成25)11月の第35回大会(広島大学)、2020年(令和2)11月の豊栄町郷土史研究会を主管団体に開催された第42回大会(賀茂北高等学校)に続き7回目の大会でした。

今大会の最大の特徴は、東広島市政施行と軌を一に歩みを刻んだ「創立50周年」という歴史的節目の年の開催です。「創立50周年記念事業」のメイン事業として、多様な風土と自然に恵まれ、多彩な歴史と文化を育んだ「まほろばの郷・東広島」の魅力を知っていただく機会と位置づけ、冒頭述べた「オール郷土史で裾野広く」を基調に取り組みを進めました。



オープニングは吉本正就前副会長を中心に活動されている「志和さなえ会」の皆さんによる三味線演奏と西条酒造り唄で飾っていただき、東広島市教育長・市場一也様、東広島市議会議長・奥谷求様、東広島市観光協会専務理事・上向隆様をご来賓にお迎えし、県内21団体234名の参加のもと開催されました。

### 学びの感動をいただいた二つの講演

大会恒例の講演では、広島大学大学院人間社会科学研究科の熊原康博教授から「地図を活用した郷土史のスヌー東広島市の事例から」と題し、国土地理院の地図や航空写真、3D地形モデルや赤色立体地図などを用いた分析で郷土理解がより深まることを学びました。点だった理解が面的に、立体的に、そして歴史的にへと理解が広がる楽しさを実感するお話でした。

続いて、当研究会の酒研究の第一人者、松木



津々二会員に「日本最後の酒都『西條』」と題し、酒造り技術とともに歴史的に変遷してきた「酒都」について、三浦仙三郎が編み出した「軟水醸造法」により、大正から昭和の初期頃まで全国の酒造りをリードする「酒都西條」が形成された歴史についてお話しいただきました。

県史協大会から一ヶ月後の12月5日、日本酒や焼酎、泡盛といった日本の「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。関係者はもとより、酒を愛好するすべての皆さんと喜びを分かち合い、あらためて酒造りの歴史と伝統を伝承しなければと思いました。

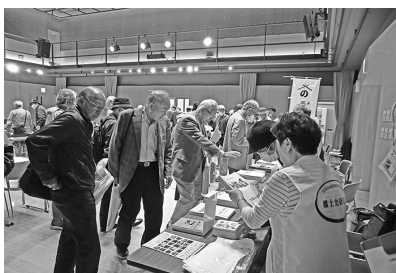
#### 臨地研修2コースと2つの特別企画

午後からは「国史跡めぐり」と銘うち、「東広島のあけぼのコース（Aコース）」と「西国街道四日市宿コース（Bコース）」の2コースに分かれた臨地研修。紙数の都合でそれぞれについては触れられませんが、特筆すべきことだけ報告します。

それは、「会員だけでなく諸団体や市民、学生などに参画していただく取り組み」とすることができたことです。Aコースでは広島大学総合博物館の先生やスタッフ・学生さんに、Bコースでは東広島ボランティアガイドの皆さんに参画いただきました。A、Bコースとも史跡案内ボランティアに応募くださった賀茂高等学校、精華学園高等学校から4名の生徒さんに案内を担っていただきました。

また、多彩な歴史と文化を育んだ「まほろばの郷・東広島」を知っていただき、豊かな瀬戸内と賀茂台地の恵みを求めていただく機会にと、2つの「特別企画」を組みました。

市教育委員会のご協力をいただいた「“安芸のまほろば”パネル展」は多くの方に見入っていただき、市



産業部ブランド推進課と「道の駅西条のん太の酒蔵」のご協力による「酒と海里めぐみ展」では沢山のお買い上げをいただきました。

熊原先生の著書と当研究会の出版物などを販売した書籍コーナーも盛況でした。

#### 物心両面で支えていただいた県史協大会

「市政施行50周年事業」として市の認証をいただいた県史協大会。一つの大きな課題は会場費や臨地研修の貸切バス料金など多額の費用捻出でした。そこで、事業所や団体の皆さんに物心両面のご支援をお願いすることとし、費用の53%余りに相当する額を目標に「協賛広告」（『ひろしま県史協』No.42）を取り組みました。お陰様で77の事業所・団体から目標を上回る協賛広告を頂戴しました。

あらためまして、ご協力くださいました事業所・団体の皆さまに心よりお礼を申し上げます。

#### 始まった新たなステージ

##### 引き続き、よろしくお願い致します

「創立50周年記念事業」を経て、現在4月29日に開催します「第39回東広島の史跡・文化財を見て歩く会」をはじめ、2025（令和7）年度諸事業の準備を進めています。

今年は2005年（平成17）の「平成合併」によって新市が誕生して20周年にあたり、初めて旧市域以外で開催します。温暖な瀬戸内に面し古くから海上交通の要所として栄え、すぐれた杜氏を数多く生み、広島杜氏のふるさととして知られる安芸津での開催です。

文字通り、新たなステージに立った活動のスタートです。

青い海と空に映える瀬戸内の多島美を楽しみながら、安芸津の歴史の息吹を感じていただくイベントとして、安芸津町商工会、安芸津町観光協会、安芸津郷土史研究会、三津自治会などのご協力をいただき準備を進めています。

多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

おわりに、「創立50周年記念事業」にご尽力いただき、ご支援くださった皆さまに深甚よりお礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

#### 2月例会発表

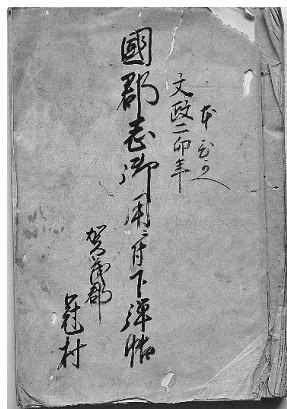
##### 古文書へのいざない

近藤 英治

古文書研究会は月に1回の例会を催しています。回次は300回になろうとしています。発足当時は文字どおりの研究の会であったと思われます。けれども数年前から会員数が減少してきており、先行き心もとない現状にあります。

今回は古文書へのいざないと題して、「国郡志御用に付下しらべ帳 賀茂郡冠村（文政2年）（1819）控」を読み下してその魅力をお話しました（冠村は志和町の南部）。

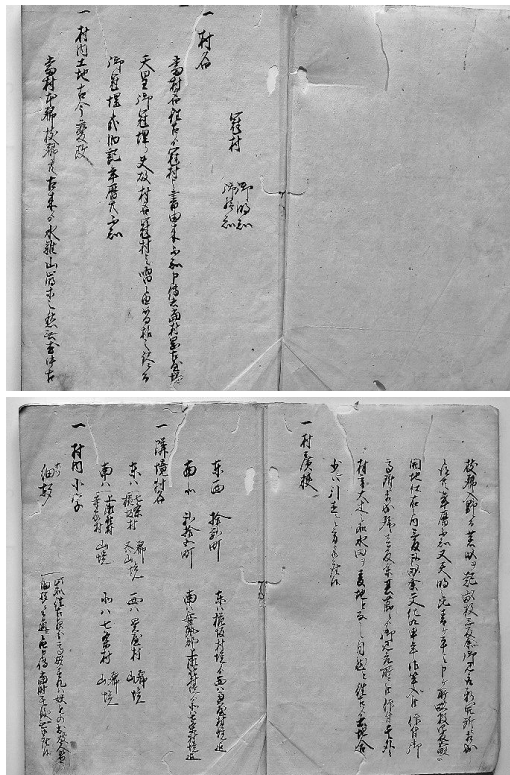
下しらべ帳（書上帳ともいう）とは、広島藩が芸藩通志（文政8年（1825）に完成）の編纂に際し、領内のすべての村（町方を含む）に命じて所定の様式で実情を細かく報告させた文書です。その主要項目は：村名の由来・



古今土地変改・村広狭・隣境村名・小字・田畝歳額・諸上納・社倉・形勢生産・風俗（年中行事）・行程標的・所々里程・御留山等・川・橋・堰・池塘等・神祠・寺・廃寺・古城古跡・名勝・人品・物産貨品・戸口人口・牛馬数・動植物名・付録・別冊で村絵図・農具の図などと多岐にわたっています。今回は、その中から興味深い記述を原文のまま読んで解説を付して紹介したいと思います。

最初に冠村の村名の由来は、申伝は当村岡古屋城に天皇の御冠埋まりそれ故冠村と唱え候由、如何様の訳にて御冠埋め候や旧記年暦とも不知と記述されている。人口は811人、石高747石余となっている。歴史とは生きていた人間の営みの記録であるので、次は風俗（年中行事）の項に進んで人々の暮らしぶりを読んでみます。それは正月から始まっています。「正月元朝、寺々に鐘を突くと身悦と唱て雑煮を食し先ず生土神・寺へ参、夫より追々村役人并一族因人へ年頭の礼に勤（中略）正月十一日牛馬に雑煮を食せ、暮れ方に牽出し・かけらし是を追初め又は牛の正月とも唱え申候。同十四日左儀長之式をとんどとうと唱、近所七八軒ほど宛竹に藁を結え添え清浄之地へ建て暮れ方火を付、とうとうや法成就と声を上申候（中略）三月三日一日休日、草餅を搗き雑を飾り候者も御座候（中略）六月の内、泥おとしと申し候て、田植えの節合力仕くれ候者を相招き粗膳を振舞申候・・・」

紙面の都合で大部分を割愛しますが、この項目には、米・麦作り、農閑の多様な作業、節目の祭礼、冠婚葬祭など、田植歌まで記述されています。村人たちは農業に従事し年貢を上納しながらも、その合間には季節の行事を楽しみ、神仏を崇拝してつつましく暮らしていたことが読み取れます。読むだけで人々の姿や会話まで想像できてしまいます。



村々すべての書上帳を集積して芸藩通志が完成しました。そしてそれは「藩公の領内把握と施政の助となった（芸藩通志序文（頼杏平）の要約）」のです。通志には書上帳にある細かいことの記述はないので、残された書上帳の控は村々の極めて詳細な情報を現在に伝えてくれているのです。さて皆さんは、自身の縁故のある村のものを読んでみたくありませんか。できればくずし字で、となれば私の発表は成就したことになります。

初めて古文書に接したときには、毛筆で書かれた「くずし字」ととまどいます。しかしそれらは外国語ではなく、先人たちが普段当り前のようによく使用してきた文字なのです。時間をかけて慣れれば読めるようになるので、興味が湧いた方は古文書研究会を見学に来て下さい。一般の通信講座・カルチャー教室も仲間ができて楽しいものです（県立図書館に入門講座あり）。入門書を読んで独学する手もあります。中国のことわざ「始めれば半ばまで到達したようなもの」いうのがあります。全国には数にして何億点といわれる古文書が残っていて、あなたに解説されるのを待っているのです。

参考：芸藩通志は国立公文書館のHPから閲覧できます。

### 新入会員 原直誉さんのメッセージ

「八百万の神々」という言葉が示すように、南北に長く伸びる我が国は、多彩な生きものに

満ち、それらと共生してきた先人の教えや知恵が各地に息づく、まさに魅力あふれる土地です。しかし残念ながら、そんな豊かな楽園が音を立てて崩れ去りつつある現状を日々痛感しております。

近年、世界では年間に数万種もの生きものが絶滅していると言われていますが、無脊椎動物を専門としてきた私の目には、実際には新種として発見・記載される前に消え去る種も多く、その絶滅速度は公表されている数値の数倍に達しているように映ります。また、文化の多様性も同様に深刻な危機にあり、その問題意識がまだ広く浸透していない分、生物多様性の喪失に匹敵する、あるいはそれ以上に深刻な状況と言っても過言ではありません。

しかしながら、私は異郷から参りました若輩者であり、生態学を修士課程まで学んだものの、その根はただの「生きもの好きの少年」に過ぎません。現在は野外で虫を追うことは減り、代わりに「本の虫」となって昆虫以外の無脊椎動物、特に蚯蚓（ミミズ）の文化史研究を専門として標榜し、福岡大学商学部シチズンサイエンス研究センターに籍を置いております。

拙論「ミミズのアニメーション表象から捉える現代人の動物観」は、稀に登場するミミズを模したキャラクターの描かれ方から現代人のミミズ観を解き明かした、私のささやかな半生の集大成です。J-Stageにてご一読いただければ幸甚です。

一方、八田蚯蚓伝説や蚯蚓神社などに見られるように、マイナーな生きものの文化誌は地方の歴史や文化の中にこそ眠っていると確信し、各地域の活動にも積極的に関わってまいりました。そんな折、東広島市の共創型起業プログラム「円陣」を知り、かねてより実現したいと考えていた「研究者と地域住民の交流の場づくり」事業を、この東広島市で実施させていただける運びとなりました。そのご縁と私自身の研究関心が重なり、東広島郷土史研究会の存在を知るや否や、すぐさま入会させていただきました。

今後は研究者として、皆さまから東広島市の歴史や文化について多くを学ばせていただくとともに、この地に息づく多様な生きものの自然史と文化誌を丁寧に記録してまいります。また、円陣プレイヤーとして、地域の方々が気軽に研究者と交流できるようなイベントや空間づくりにも積極的に取り組んでまいります。

まだまだ至らぬ点が多いと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

#### 【郷土史研究会ニュース原稿募集のお知らせ】

郷土史研究会ニュースの原稿を募集しています。会員ならどなたでも紙面で発表できます。パソコンが苦手な方は手書きでOKです。ぜひ、ご寄稿ください。

#### 【新規会員募集中】

活動が気になる方は、下記QRコードから覗いてみてください。



Instagram



HP



Facebook

#### グループ研究会ご案内

##### 第295回 古文書研究会

と き 4月15日(火) 13:30～  
 ところ 市役所北館 市民協働センター  
 テキスト 国郡志御用書上帳賀茂郡奥屋村⑩

##### 石造物研究会

4月はお休みします。

##### 第192回 四日市町並研究会

と き 4月14日(月) 10:00～  
 ところ 西条本町歴史広場 コジマヤ土蔵  
 内 容 「酒都西條」とりまとめ

##### 昔の道探訪会（旧山城探訪会）

4月はお休みします。

##### 原爆資料保存研究会

と き 4月17日(木) 14:30～  
 ところ 市役所北館 市民協働センター  
 内 容 原爆展の企画展、イベントについて

##### 4月の図書室開放

と き 4月18日(金) 13:00～15:00  
 ところ 高屋教育集会所

#### ひがしひろしま郷土史研究会ニュース 第608号

令和7年（2025）4月5日発行  
 編集・発行 東広島郷土史研究会  
 会 長 赤木達男 TEL(082)423-7235  
 E-mail:akata@t4.dion.ne.jp  
 事務局長 國松宏史 TEL090-7979-6234  
 E-mail:kunimatsu402@hi3.enjoy.ne.jp  
 会報編集 進藤真由美 TEL 090-2860-0177  
 Email:m.shin.pasha@gmail.com